

一般演題（口演）

Sat. Nov 15, 2025 2:30 PM - 3:20 PM JST | Sat. Nov 15, 2025 5:30 AM - 6:20 AM UTC 会 Room 6

[O25] 一般演題（口演） 25 臨床研究2

座長：深澤 貴子(磐田市立総合病院消化器外科), 坂本 義之(独立行政法人国立病院機構弘前総合医療センター消化器外科)

[O25-4] 当院におけるLow-grade Appendiceal Mucinous Neoplasmの臨床病理学的検討

勝又 健太¹, 内藤 正規¹, 根岸 宏行¹, 臼井 創大¹, 天野 優希¹, 西澤 一¹, 小川 敦博¹, 有泉 泰², 大坪 毅人³, 民上 真也³ (1.聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院消化器・一般外科, 2.聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院病理診断科, 3.聖マリアンナ医科大学消化器・一般外科)

はじめに：Low-grade Appendiceal Mucinous Neoplasm（LAMN）は2010年のWHO分類において分類されることとなった虫垂粘液腫瘍の1つである。LAMNは術前診断が困難なことも多く、術後に病理検査で偶発的に指摘されることが多い。そして適切な術式、フォローアップ方法なども定まったものはまだない。

目的および期間：当院で2013年1月から2024年3月までの間に、虫垂炎を含む虫垂腫大に対する手術加療を270例施行し、そのうち12例がLAMNと診断された。そのうち、断端距離、深達度について再検討を行うことができた10例について臨床病理学的検討を行い、適切な術式やフォローアップについて検討する。

結果（数値は中央値）：年齢は69歳（27-86歳）、性別は男性7例で女性が5例であった。虫垂炎として手術加療を受けたのが8例、虫垂粘液腫の疑いとして手術を受けたのが4例であった。虫垂粘液腫の術前診断の4例には、3例で盲腸部分切除、1例で回盲部切除が施行された。虫垂炎の既往があったのは2例であった。術前の虫垂径は13（9-28）mm、術後在院日数は5（2-15）日だった。フォローアップに関しては、4例が終診、6例がフォローアップ中であり、期間は32（12-84）ヶ月であった。全症例で断端陰性、断端距離は15(3-40)mmであり、全症例で再発は認めなかった。

考察：当院では大腸癌治療ガイドラインに従ってフォローアップを行うことが多く、5-10年を目標として経過観察を行っている。また、全症例で断端陰性、観察期間内に再発を認めなかったことから、少なくとも断端陰性を確保できる術式を選択すべきと考えられた。